

が家へ行むかふ所に、郡司きはめたる相人也けるが、日來はさもせぬに、ことのほかに饗應して、わらふだとりいで、むかひてめしのぼせければ、善男あやしみをなして、我をすかしのぼせて、妻のいひつるやうに、またなごさかんするやらむとおそれ思ほどに、略

〔兵範記〕久安五年十月十九日丁卯、今日於宇治縣小松殿有左府藤原若君元服事略

今度御裝束無敷筵、不敷圓座菅圓座等御曹司狹少之上、依無便宜、每事省略、既違代々儀、不可爲

後代如法儀歟略

〔山槐記〕治承四年二月十九日辛丑、來廿一日可有御讓位高倉、秉燭之後、時光自傳御許歸參、示問

狀之返事略

一攝政被仰下藏人時、可敷圓座哉事、延久應德永治敷之、自餘無所見、仍所申合也、

返答云、先例只今不覺悟、雖一代敷之者、尤可被敷上、有其理之故、

〔土岐累代記〕濃州岐阜稻葉山城初築代々城主之事

伊賀次郎氏ヲ始テ稻葉ト改シ事ハ、京都在番ノ折カラ、圓座ト云物ヲシキモノトセリ、公家ニ見

ナレヌ珍キ物カナト、叡聞ニ達シ、稻葉ナリヤト勅詔アリシトナリ、彼一器ヲ勅シ給フ故カ、

〔下行賦類抄上〕賀茂祭中西日

應仁元年大亂以後斷絶、元祿七甲戌年四月十八日、御再興略、調進方略

一同米現九斗圓座三枚掃部寮

〔續日本後紀仁明〕天皇諱正良、先太上天皇嵯峨之第二子也、母皇太后嘉智子贈太政大臣正一位橘朝

臣清友之女也、太后曾夢自引圓坐積累之、其高不知極、每一加累、且誦言卅三天、因誕天皇云、

〔倭名類聚抄十四〕茵附野王曰、茵音因、和名茵褥又以虎豹皮爲之、唐韻云、褥而蜀反、辱同、此間選

等爲之、氈褥也、

茵  
名稱

圓座雜載